



# 長岡技術科学大学における多読実践と附属図書館による多読支援

## 長岡技術科学大学附属図書館

基盤共通教育部 藤井 数馬, 市坪 誠, 機械創造工学課程3年 立野 嵩陽

第5回シンポジウム「図書館多読への招待」 2018年11月26日(月) (於) 浜松市立中央図書館

### 国立大学法人 長岡技術科学大学の特徴



- ユネスコ認証教育プログラム: ユネスコチェア
  - ⇒ SDGsを教育研究に/国連との連携 “世界とつながる大学”
  - ⇒ 日常に英語・スペイン語・ベトナム語など
  - ⇒ 海外拠点GTP: 5か所, 海外協定大学等: 99機関
- ◎留学生の割合大: 学生8~9人に1人
- ◎スーパーグローバル大学事業(SGU)
- ◎世界展開力強化事業(メキシコ, インド)
- 高専卒者(3学年に受入)8割以上: 修士まで6年一貫教育 (大学院進学率82.2%)
- ◎長期インターシップ: 学部6ヶ月(⇒卒論なし)
  - ⇒ 海外派遣: 約2割/アジア・ヨーロッパへ, 他は国内派遣(企業・中央研究所など)
- ◎卓越大学院プログラム採択(世界最高水準のエリート育成) ⇔ 技術科学イノベーション専攻(博士一貫: 授業料等全て無料)
- 特長ある教育: 経営系専攻あり(文系学生も), 原子系・安全系専攻あり, 教員免許取得あり “就職に強い大学” “産学連携・社会実装の大学” “君が主役, 世界で活躍へ”

### 長岡技術科学大学附属図書館の特徴



- 研究室に配属された学部4年生および大学院生は、原則年末年始を除き24時間入館可能。
- 学部学生、大学院生、教職員は、図書は10冊(2週間)、DVDは2点(2週間)、ノートPCは1台(当日限り、館内使用のみ)貸出可能。
- 学外者も所定の手続き後に利用可能。
- システム安全専攻学生および社会人学生は、図書の宅配サービスを受けることが可能。



- 図書の貸出手続きは、自動貸出装置(ABC)を使用し、学生証があれば手続き可能。
- 返却は、開館時間であっても返却ポストへ返却可能。
- 3階には「グループ閲覧室」があり、議論やホワイトボードで記録をとりながら学べる。

### 長岡技術科学大学における英語多読授業の開始

#### 【英語多読授業開始の背景】

- 表1は、A高等専門学校における、一般科目教員担当の必修英語授業時間(概算)
- 低学年次から、工業や、その基礎科目となる数学や物理に比較的多くの授業時間が割かれるため、高専の英語授業時間数は一般高校の概ね3分の2程度(藤井・村上・青田, 2016)。
- Brown and Larson-Hall (2012: 8)が、英語話者が日本語を学ぶのに、教室での学習は2,400-2,760時間が必要と述べていることを考えると、英語のインプット、アウトプットともに量・質の不足が起こってしまう。
- 授業外で自律的に英語を学ぶ習慣育成のための、授業内多読+授業外での自律的多読支援+アウトプットとしての英語ミニブリアトル(藤井, 2017)。

学年	必修授業時間
1年次	7,245分
2年次	6,750分
3年次	5,400分
4年次	2,700分
5年次	なし
合計	22,095分
	時間換算: 368.3時間
	日数換算: 15.3日分
	1年当たりの授業: 3.1日分

表1 A高等専門学校における一般科目教員担当の必修英語時間

この現状から読み取れる高専、技科大生への英語教育指針

①授業以外での英語学習の場を提供し、授業と紐づけをして授業外学習に向かわせること

②その場は、比較的授業が多い低学年次から提供し、長期的に取り組むこと



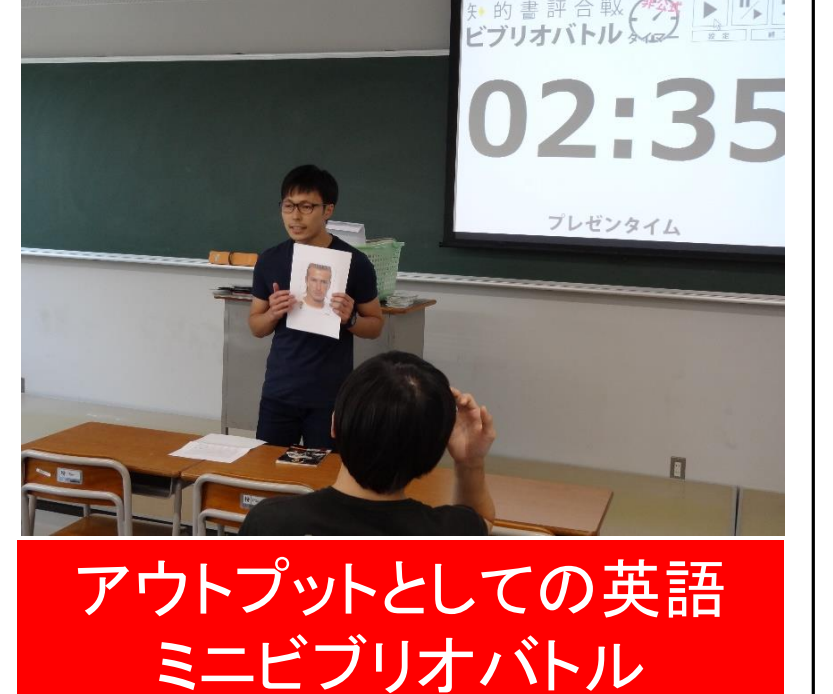
3年次授業での多読



放課後を利用した学生主導の授業外多読多聴マラソン



放課後を利用した学生主導の授業外多読多聴マラソン



アウトプットとしての英語ミニブリアトル

#### 【英語多読、ミニブリアトルに対する学生の意識】

- 半数以上の学生が、多読は楽しく、外部試験対策としても有効であり、自分に合っていて、今後続けたいと回答(表2)。
- 多読のアウトプット活動として行ったミニブリアトルに対して、約9割の学生が英語を話す良い機会となり、有意義な活動だったと回答し、7割の学生が楽しんで、他者の本に関心を持つ契機となったと回答(表3)。

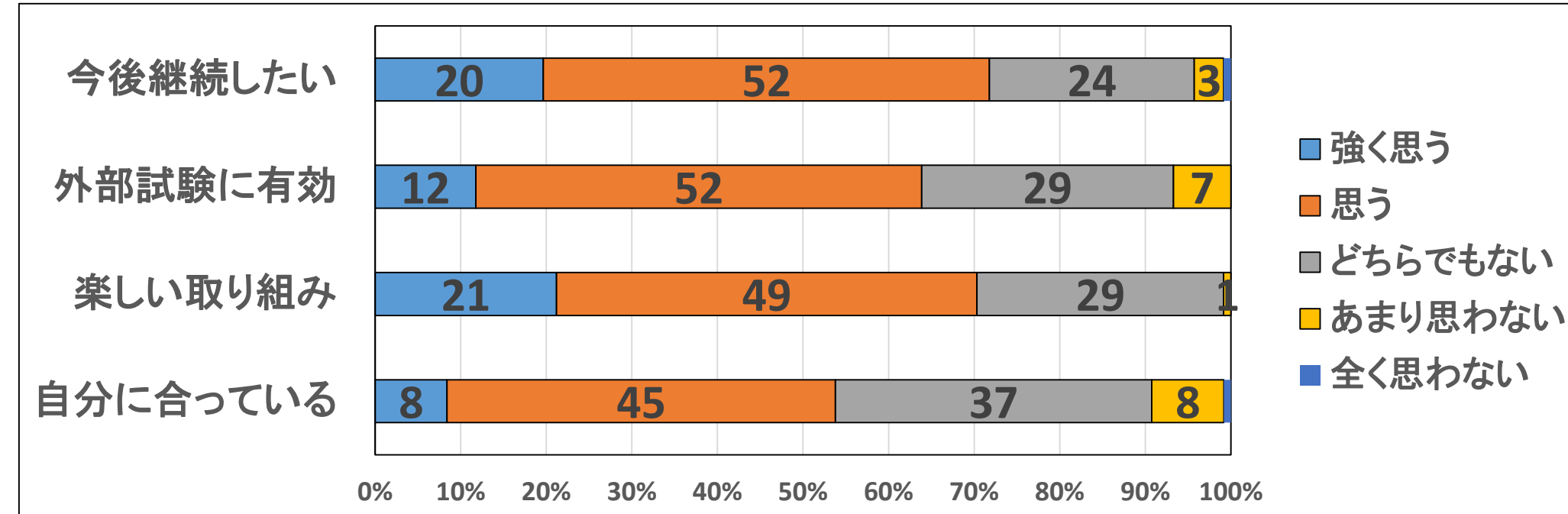


表2 英語多読に対する学生の意識(N=117)

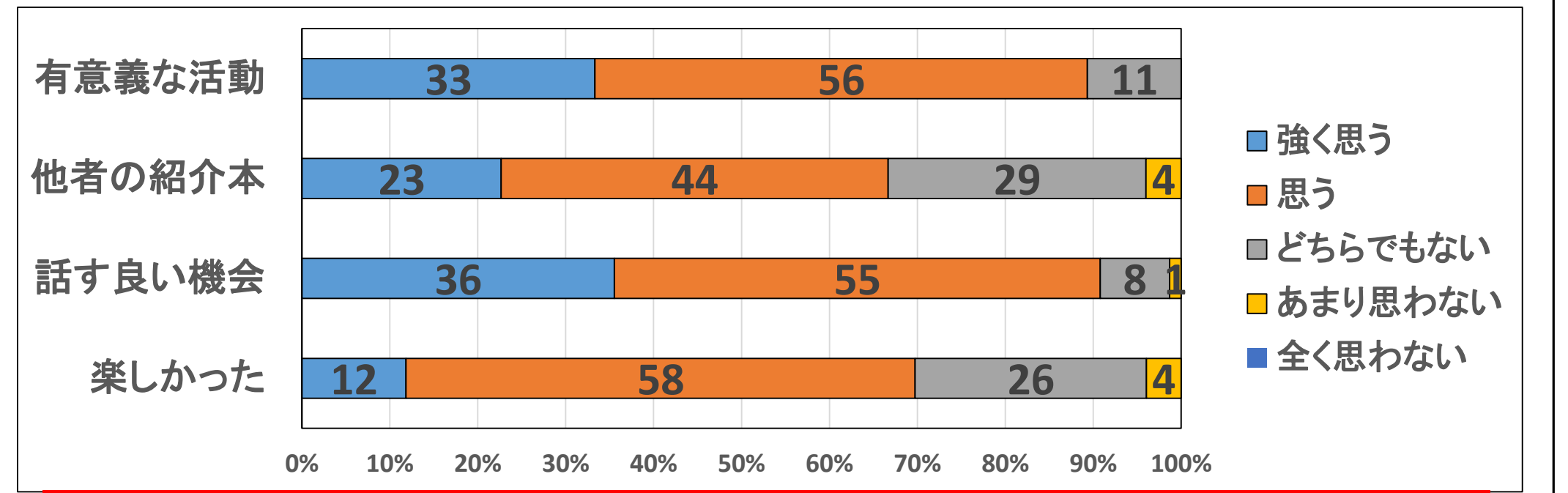
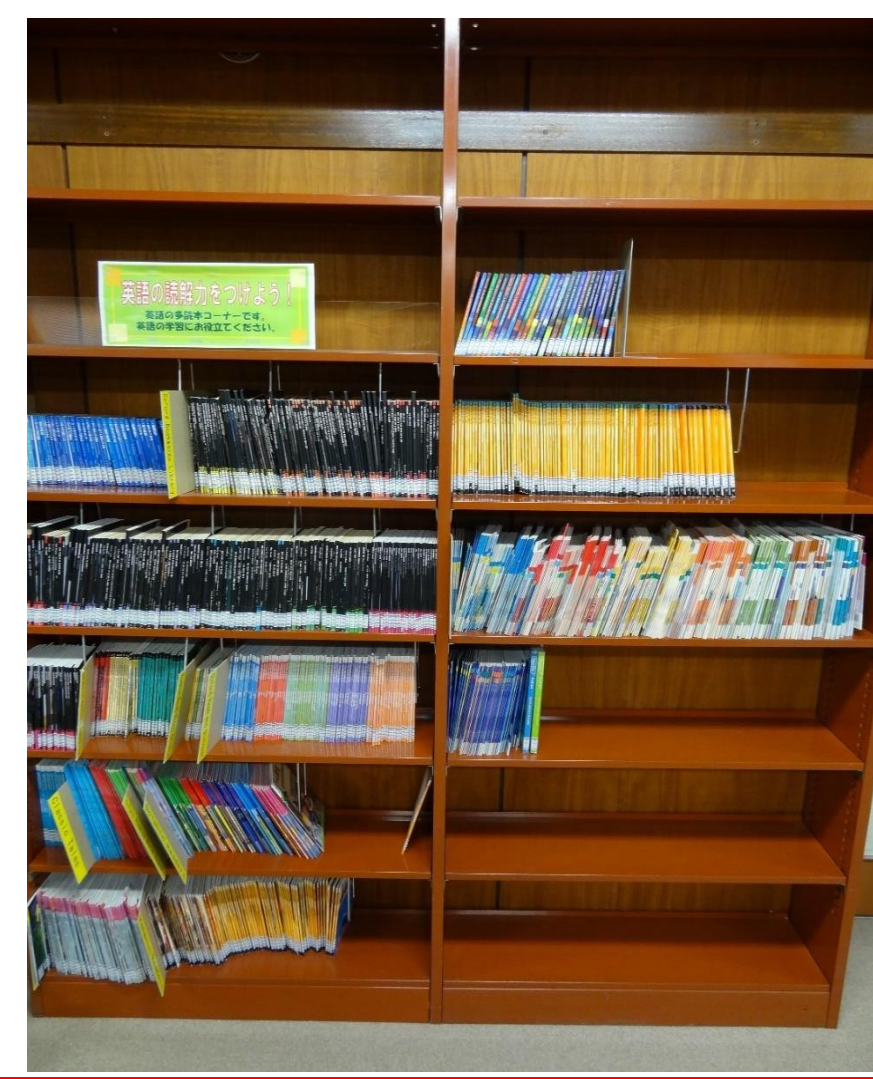


表3 英語ミニブリアトルに対する学生の意識(N=75)

### 長岡技術科学大学附属図書館の多読環境整備

- 平成30年度から授業内多読を開始したことに伴い、「平成30年度学長戦略経費」の支援を受けて、附属図書館に多読図書を拡充。平成29年度までには図書館になかったシリーズを加え、理工系の学生に人気のノンフィクションの多読図書も増やした。さらに、Maruzen e-book Libraryで、Macmillan Readers (MMR) シリーズを購入。
- 附属図書館だけでなく、日本人学生と留学生とが英語を使って気軽に接する機会を創出するために、本学原子力棟ラウンジの一角を借りて、多読図書やゲームやDVDを配備。



多読コーナー(平成30年4月)

**拡充した主なシリーズ**

BBL (Building Blocks Library) / CER (Cambridge English Readers) / CG (Curious George) / CPT (Cengage Page Turners) / FRL (Foundations Reading Library) / ICR (I Can Read!) / Little Miss / Mr. Men / MTH (Magic Tree House) / PGY (Penguin Young Readers) / RTR (Ready-to-Read) / SIR (Step into Reading) / Who Was...

Maruzen e-book Library



多読コーナー(平成30年11月)



原子力棟ラウンジ



今後は、SDGsへの意識を高める多読活動の導入を検討

開架多読図書(冊)	
平成30年3月末	平成30年10月末
1,324	1,988

多読図書貸出(冊)	
平成29年度	平成30年度10月末時点
285	5,245

### 放課後を利用した学生主導の多読多聴マラソン

- 1学期は学内のアクティブラーニング室(AL室)を活用し、週4日(月~木)放課後に活動。
- しかし、AL室は共有教室のため、多読図書等の物品保管ができない。
- 2学期から原子力棟ラウンジに活動場所を変更し、多読図書等を配備。
- 週3日(月、水、木)放課後に10人程度が集まり活動。



1学期の活動の様子(AL室)



定期的な会議(学生+教員)



2学期の活動の様子(原子力棟)

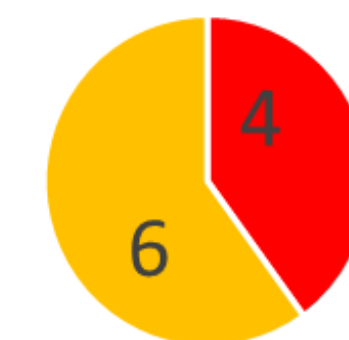
参加者の声(アンケートより)  
・速読力が上がった気がする  
・英語に触れる時間が増えた  
・英語スキルを上げたい

一方で.....  
・まだ効果を感じていない  
・実感がわからない

継続的な活動を促すことが必要!

- 回答者全員が「英語多読多聴を続けたい」と回答 → マラソン参加者は多読多聴に対して高い動機づけを持っている。

英語多読多聴を続けたいですか?



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

#### 現在の活動状況

- 活動日: 週3回の放課後
- 参加者: 約10人/回
- 活動時間: 1時間程度
- 活動内容:  
学生主導で活動  
・多読図書の多読  
・CDと多読本を用いた多聴  
・英語アニメ鑑賞  
・英語ディスカッション等

### 謝辞

本事業は平成30年度長岡技術科学大学学長戦略経費の補助を受けております。また、原子力棟ラウンジの使用に関しては、本学技術科学イノベーション専攻長の承諾をいただきました。

### 参考文献

Brown, S., & Larson-Hall, J. (2012). *Second language acquisition myths: Applying second language research to classroom teaching*. The University of Michigan Press.

藤井数馬 (2017). 『多読を英語発話力養成に繋ぐための新規プログラムの開発—「英語でブリアトル」の開催と英語表現集の共有化—』沼津工業高等専門学校英語科。

藤井数馬・村上真理・青田広史 (2016). 「沼津高専における英語多読指導と継続支援のためのウェブサイトの開発」『東海工学教育協会高専部会 アクティブラーニングおよびICT利用の試み シンポジウム概要集』10, 37-38.